会長就任に際して

会長　藤　本　一　郎*

このたび会員各位のご推挙により，日本鉄鋼協会会長に選ばれましたことは，私の身にあまる光栄と存じ，感激にたえないところであります．ここに所感の一端を述べて，会長就任の挨拶といたします．

さて，日本鉄鋼業は周知のとおり，大戦による破壊と混乱の中から這い上がつて，数次にわたる近代化・合理化計画を積極的に推進してまいりまして，今や良質の鉄鋼製品を，大量にしかも低コストで生産する方策を確立するにいたり，基幹産業としてまた輸出産業としても，わが国経済の発展に重要な責務を果たしつつあります．今日粗鋼生産量は，世界の第3位にランクされるまでに飛躍的に増大いたしましたが，生産量もさることながら，製品の品質・価格の面におきましても，十分な国際競争力を保持しており，これらを可能にした製造技術と設備が，世界第1級の水準にあることは，国内外のひとしく認めるところであります．

このような驚異的な発展を遂げた理由としては，わが国の活動的かつ勤勉な，しかも高度の教育と訓練を受けた数多くの優秀な働らき手に負うところが大でありますけれども，それに加えて，世界のすぐれた技術を積極的に導入し，しかも単に模倣するにとどまらないで，これを出発点としてさらに改良工夫を加え，一段とすぐれた技術として完成させ吸収したことが，今日の成功につながる根本であることも，しばしば指摘されているところであります．

このように外国のすぐれた技術を取り入れて，自らの技術水準を高めることは，決して恥ずべきことではなく，ことさらに外に対して目を覆い独善に走つて，世界の進運に取り残されてしまつてはなりません．今後ともすぐれた技術は積極的に導入し消化していくことが必要ではありますが，他方わが国の工業国としての地位が高まつた結果，競争相手国からの安易な技術導入には次第に頼れなくなつてきております．資本の自由化に伴い，今後ますます激化の予想される国際競争に対処して，わが国鉄鋼技術がその世界的水準を保ち，さらに世界をリードしていくためには，自主技術の開発を積極的に推進することの急務であることは明白であります．

外国の技術を導入するに際しては，これを立派に育て上げ，本家を凌ぐ美しい花を咲かせる能力を持つわが国民が，このように独創的な自主技術の開発が久しく待望され，その必要性が叫ばれているにかかわらず，新しい技術の創造に成功した例がまれであるのはなぜでありましようか．

私は近代科学技術から全く隔絶していたわが国が，明治初年以来，近代国家としての実力獲得に急なあまり，外国科学技術の模倣に終始しきつたために，それがいつの間にか安易な方策と是認されてしまい，創造的人材の養成という地道な努力を怠たつたためと考えます．このようなわが国産業の自負できない一面を，今こそ真摯に反省し，抜本的な対策を確立しなくてはなりません．

* 川崎製鉄株式会社　代表取締役社長

今後とも，技術は一見ますます細分化されていくようですが，いたずらに狭い視野や末梢的現象にとらわれていては前進は望むべくもなく，常に基礎的原理・法則に関連させて思考を展開させることによつてのみ，新しい分野が開拓されるのであります．この意味において，佐野前会長が言われたように，「新しい工学を身につけた技術者」が今日ほど渇望されている時はありません．このような人材の開発こそ，激化する国際競争に打ち勝つ必須の要件と考えます．

したがつて，私は大学および企業における教育について，旧来の陋習を破り，思い切つた改革を行なうことを特に強調したいと思います．人材の養成については，根本的には現在の大学での工学教育の改善にまでさかのぼらねばなりませんし，それとは別に，企業内の技術者に教育・訓練の機会を与えることも重要であります．これがためには，大学を含めた教育研究機関と業界との間の意志疎通ならびに協力関係を，抜本的に改善し親密化していくことであります．

本協会はこの使命を達成するための最適の機関であり，幸い歴代会長および役員各位におかれてもつとに着目されていたところでありまして，その準備が進められ着々と実行に移されておりますが，なお一層の前進を計るべく微力を尽くしたい所存であります．

なお自主技術の開発のためには，上述のような人材養成の方策のほかに，国際的には技術の交流を深め，有益な情報・アイデアの交換を行ない，これを消化していくことによつて，円滑かつ効率的に進められるものと思います．この意味から本協会が昭和45年9月，東京において鉄鋼技術国際会議を開催する方針を定められたことは，まことに時宜を得た企画であると存じ，その準備万端を滞りなく推進していきたいと念願いたしております．

以上所感の一端をのべ，会員各位の絶大なご支援を切にお願いする次第であります．